

(松 阪)

### 三重・丁長遺跡

ちよなが

- 1 所在地 三重県多気郡明和町斎宮宇丁長ほか
- 2 調査期間 第二次調査 二〇〇六年(平18) 五月～七月
- 3 発掘機関 三重県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 野島美沙子・小林俊之
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 中世～近世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

丁長遺跡は、国史跡斎宮跡の東方に位置し、笹笛川中流域左岸の段丘上に立地する。第一次調査において古代の伊勢道と考えられる

道路遺構が確認されているが、今回の第二次調査では、中世から近世にかけての遺構のみ確認された。遺構は溝や井戸が大半を占める。今回紹介する木簡は、近世の井戸SE六〇から出土した護摩木一点である。SE六〇は上層が大きく破壊

されていたが、下層には一辺約1mの縦板組み隅柱横棧止めの方形の井戸枠が遺存していた。隅柱の上端部は切断面を残しており、護摩木はこの隅柱直上で出土した。

8 木簡の積文・内容

(1) 「(カンマン) 宝曆二年 吉野山

□<sup>〔齋カ〕</sup> 奉修大峯山上護摩供如意祈攸

九月吉日

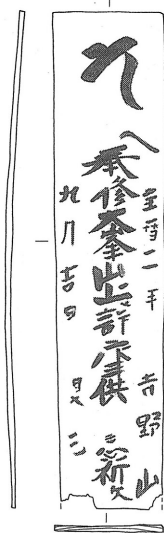
□<sup>〔桜本坊カ〕</sup> ] 411×33×5 061

スギ材の護摩木。明瞭な焦げた痕跡はないが、下端部両角が欠損していることから、護摩木を受けた際に、先を護摩の火で焦がして持ち帰った可能性がある。梵字「齋」(カンマン) は不動明王の種子。「齋」(カンマン) の可能性もある。宝曆二年は一七五二年。

「桜本坊」は金峰山寺の塔頭名である。

9 関係文献

三重県埋蔵文化財センター『平成一八年度三重県埋蔵文化財年報』(二〇〇七年)



(野島美沙子)